

PlateSpin® Migrate Connector

クイックスタート

2016年12月

保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許に関する方針、およびFIPSコンプライアンスの詳細については、<https://www.netiq.com/company/legal/>を参照してください。

Copyright © 2016 NetIQ Corporation, a Micro Focus company. All Rights Reserved.

目次

本書およびライブラリについて	5
1 Connectorの概要	7
PlateSpinマイグレーション環境	7
PlateSpin検出環境	10
主な機能	11
2 Connectorのインストール	13
インストール要件	13
PlateSpin Migrate Connectorのダウンロード	13
PlateSpin Migrate Connectorのインストール	13
3 PlateSpin Migrate Connectorの設定	15
展開要件	15
PlateSpin製品	15
ネットワーク接続とアクセス要件	16
Transformation ManagerのConnectorインスタンスの設定	19
Connectorのグローバル設定	21
Connectorのグローバルオプションについて	21
グローバルMigrate Connector設定の表示	23
グローバルMigrate Connector設定の編集	24
PlateSpin Migrateサーバの接続情報の設定	24
PlateSpin Migrate Connectorサービスの開始、再起動、または停止	25
Connectorの起動の「自動」または「手動」の設定	25
変換ワークフローエラーのトラブルシューティング	26
Connectorログの表示	26
アプライアンス上のConnectorログファイルのダウンロード	26

本書およびライブラリについて

『PlateSpin Migrate Connectorクイックスタート』では、PlateSpin Transformation Managerサーバと1つ以上のPlateSpin Migrateサーバの間でワークロード情報、マイグレーション設定、およびマイグレーションステータスを統合するためのConnectorをインストールして設定する方法を説明します。Migrate Connectorインスタンスをインストールして設定する方法についても説明します。

- ♦ 7ページの第1章「Connectorの概要」
- ♦ 13ページの第2章「Connectorのインストール」
- ♦ 15ページの第3章「PlateSpin Migrate Connectorの設定」

本書の読者

このマニュアルは、PlateSpin Transformation Managerを使用して大規模なデータセンターの変換プロジェクトやワークロードマイグレーションプロジェクトを計画、実行および監視するデータセンターの管理者やオペレータなどのITスタッフ向けです。

ライブラリに収録されている情報

PlateSpin Transformation ManagerマニュアルのWebサイト (<https://www.netiq.com/documentation/platespin-transformation-manager-1-1/>)には、この製品のライブラリがHTML形式とPDF形式で用意されています。

その他の資料

次のオンラインリソースもご利用ください。

- ♦ YouTube.com上のMicro Focus Workload Migration and Disaster Recoveryチャンネル (<https://www.youtube.com/channel/UChezpo3HbYpPI93icqeOzJQ>): 製品のWebキャスト、デモ、およびトレーニングを提供するチャンネルです。
- ♦ PlateSpin Transformation Manager製品リソース (<https://www.netiq.com/products/platespin-transformation-manager/resources/>): ホワイトペーパーおよび他の技術情報を提供する製品Webサイトです。
- ♦ ユーザコミュニティ (<https://www.netiq.com/communities/>): さまざまなトピックについて議論するWebベースのコミュニティです。
- ♦ サポートナレッジベース (<https://www.netiq.com/support/kb/>): 詳しい技術情報の記事集です。

顧客サービス

製品の個々の問題については、[顧客サービス \(http://www.netiq.com/support\)](http://www.netiq.com/support)にお問い合わせください。

マニュアルのサポート

弊社の目標は、お客様のニーズを満たすマニュアルの提供です。マニュアルを改善するためのご提案がございましたら、本マニュアルのHTML版で、各ページの下にある[comment on this topic](#)をクリックしてください。Documentation-Feedback@netiq.com宛てに電子メールを送信することもできます。貴重なご意見をぜひお寄せください。

1 Connectorの概要

PlateSpin Transformation Manager用のPlateSpin Migrate Connectorは、単一のPlateSpin Transformation Managerサーバと1つ以上のPlateSpin Migrateサーバを統合して、大規模なデータセンター変換プロジェクトの実行を自動化します。Transformation Managerでワークロードの変換計画を設定して、それらの計画を実行のために送信します。スケジュールされた開始日に、Transformation Managerは、自身に割り当てられたPlateSpin Migrateサーバ上でワークロードのマイグレーションタスクを作成します。Connectorは、すべてのMigrateサーバにまたがってマイグレーションイベントを監視して、マイグレーションワークフローステータスをTransformation Managerに報告します。

- [7 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)
- [10 ページの「PlateSpin検出環境」](#)
- [11 ページの「主な機能」](#)

PlateSpinマイグレーション環境

PlateSpinマイグレーション環境では、PlateSpin Transformation ManagerとPlateSpin Migrate Connectorおよび1つ以上のPlateSpin Migrateサーバを結合することにより、ワークロードマイグレーションの多数のタスクを自動化できます。VMware Clusterホスト上でターゲットVMへ物理および仮想ワークロードのマイグレーションを計画し、実行できます。変換ワークフローおよびスケジュールにより、マイグレーションタスクがいつ実行されるかが決定されます。マイグレーションスペシャリストが一部のタスクを手動で実行できるようにするために、Transformation Managerでは自動化を一時的に停止できます。マイグレーションスペシャリストは、ワークロードマイグレーションを監視し、例外に対応して、より少ない時間でより多くのマイグレーションを処理することが可能です。

PlateSpin Migrate Connectorは、Transformation ManagerとMigrateサーバ間のアクティビティを統合します。また、PlateSpin Migrateサーバの大規模なファーム間でマイグレーションジョブの負荷を分散します。Migrate Connectorは、Transformation Managerからマイグレーションイベントをリスンし、適切なMigrateサーバにコマンドを配布します。Migrate ConnectorはさまざまなPlateSpin Migrateサーバからマイグレーションステータスイベントをリスンし、適切なプロジェクトとワークロード変換計画にのみそれらのイベントを配布します。

図 1-1に、自動化されたPlateSpinマイグレーションのための展開環境を示します。PlateSpinマイグレーション環境における自動マイグレーションの仕組みについては、表 1-1を参照してください。

図 1-1 PlateSpin マイグレーション環境

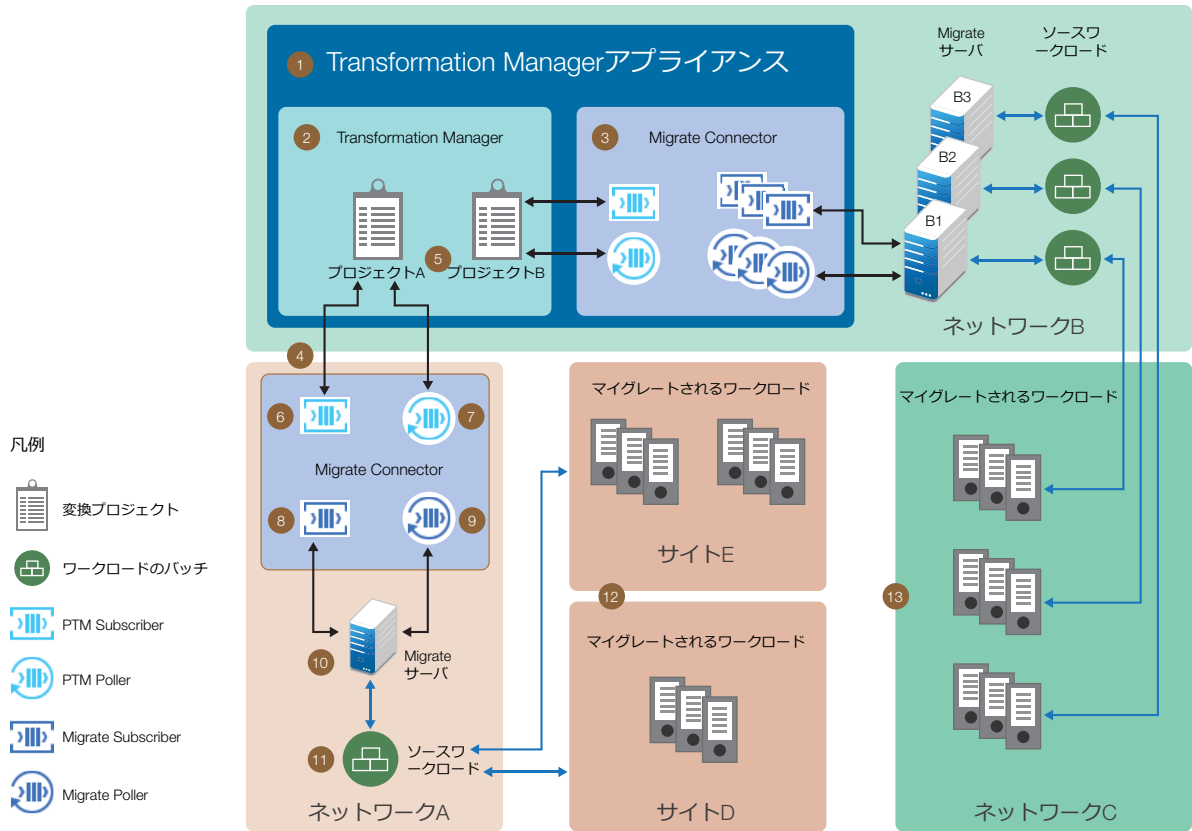


表 1-1 PlateSpin マイグレーション環境における自動マイグレーションの仕組み

PlateSpinマイグレーション環境	説明
1. PlateSpin Transformation Managerアプライアンス	アプライアンスVMIは、PTMサーバとMigrate Connectorのインスタンスをホストします。
2. PlateSpin Transformation Managerサーバ (PTMサーバ)	単一のPTMサーバは1つ以上のMigrate Connectorインスタンスを管理します。
3. アプライアンス上のPlateSpin Migrate Connector	アプライアンス上のMigrate Connectorインスタンスは、PTMサーバと連携するように事前設定されています。このインスタンスは、アプライアンスと同じネットワーク内にある1つ以上のMigrateサーバのイベントを統合できます。
4. 他のネットワークで展開されるPlateSpin Migrate Connector	PlateSpin Migrateサーバとマイグレートするソースワークロードと同じネットワークにあるMigrate Connectorインスタンスが必要です。SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP4を実行している独自のサーバにConnectorをインストールします。

PlateSpinマイグレーション環境	説明
5. 変換プロジェクト	Migrate Connectorは1つのプロジェクト用に設定されている場合を除き、すべてのプロジェクトと連携します。プロジェクトベースのコネクタを使用して、マルチテナント環境における組織のデータの守秘性とセキュリティを確保します。
6. PlateSpin Transformation Manager Subscriber	各Connectorには1つのPTM Subscriberがあります。サブスクライバは割り当てられたPTMサーバから動的にプッシュされるイベントをリスンします。Connectorをプロジェクトに割り当ててる場合、サブスクライバはそのプロジェクトからのイベントのみをリスンします。
7. PlateSpin Transformation Manager Poller	各Connectorには1つのPTM Pollerがあります。ポーラは割り当てられたPTMサーバを定期的にポーリングし、最後のポーリング以降のすべてのイベントを受信していることを確認します。Connectorがプロジェクトに割り当てられている場合、ポーラはそのプロジェクトからのイベントのみを確認します。
8. PlateSpin Migrate Subscriber	各Connectorには接続されているそれぞれのMigrateサーバとは別のMigrate Subscriberがあります。各サブスクライバは割り当てられたMigrateサーバから動的にプッシュされたイベントをリスンします。Connectorをプロジェクトに割り当ててる場合、サブスクライバはそのプロジェクトのイベントのみをリスンします。
9. PlateSpin Migrate Poller	各Connectorには接続されているそれぞれのMigrateサーバとは別のMigrate Pollerがあります。各ポーラは割り当てられたMigrateサーバを定期的にポーリングし、最後のポーリング以降のすべてのイベントを受信していることを確認します。Connectorがプロジェクトに割り当てられている場合、ポーラはそのプロジェクトのイベントのみを確認します。
10. PlateSpin Migrateサーバ	プロジェクトに対して、ワークロードマイグレーションを実行するために使用する各PlateSpin Migrateサーバに対してマイグレーションサーバリソースを作成します。マイグレーションジョブが開始されると、Connectorは指定されたMigrateサーバのサブスクライバとポーラを起動し、マイグレーション状態イベントのリスニングとポーリングを開始します。

PlateSpinマイグレーション環境	説明
11. ソースワークロード	プロジェクトに対して、マイグレートを計画しているソースワークロードに関する基本情報をインポートすると、自動検出プロセスにより詳細が追加されます。 ソースワークロードにマイグレーションサーバリソースを手動で割り当てることも、Connectorによってマイグレーションサーバリソースを自動割り当てさせることもできます。自動割り当てにより、Migrateサーバのサーバファーム間でワークロードマイグレーションの負荷が分散されます。 ワークロードを送信した後で、マイグレーションワークフローは、Migrateサーバからのワークロードの変換計画に従って進行します。
12. 異なるサイトのホストにマイグレートされるワークロード	各ワークロードの変換計画は、提案するワークロードとそのターゲットのVMwareクラスタおよびネットワークを定義します。ワークロードマイグレーションをWaveやバッチに編成し、それらをビジネスニーズに応じてスケジュールします。 この例では、同じまたは異なるネットワーク内の複数のサイトにワークロードをマイグレートすることを計画しています。同じ宛先サイトを持つバッチでのワークロード各サイトのマイグレーションスペシャリストは、サイトへのマイグレーションを管理します。
13. 同じサイトの異なるホストにマイグレートされるワークロード	この例では、データセンター内の異なるVMwareクラスタにワークロードをマイグレートすることを計画しています。バッチでのワークロードは同じ宛先のVMwareクラスタを使用します。ターゲットVMwareクラスタを担当するマイグレーションスペシャリストは、そのクラスタへのマイグレーションを管理します。

展開に関する情報については、[15 ページの「展開要件」](#)を参照してください。

PlateSpin検出環境

PlateSpin検出環境では、PlateSpin Transformation ManagerはPlateSpin Migrate Connectorと連携して、インポート時に自動検出機能を提供します。プロジェクト内のソース物理マシン、ソースVMware仮想マシン、およびターゲットVMware Clusterホストを検出できます。

注: PlateSpin Migrateサーバは検出には必要ありません。PlateSpin Migrateサーバは後でVMwareマイグレーションプロジェクトで設定できます。

自動検出付きのインポートにより、計画用のワークロードとターゲットホストのセットアップが簡素化および標準化されます。これらのマシンに対して、最小限の接続情報およびログオン資格情報を提供します。検出プロセスでは、各マシンに関する詳細が取得され、計画データベースに関連するオブジェクトのプロパティを入力して、これらの設定に基づく提案するワークロードを作成します。

- ◆ **ソースワークロードの検出:** Transformation Managerは、ワークロードのインポートと自動検出の方法として次の3つを提供しています。
 - ◆ 表計算ソフト
 - ◆ IPv4アドレスの範囲(0～255)
 - ◆ 単一のIPv4アドレス
- ◆ **ターゲットホストの検出:** Transformation Managerは、ターゲットVMware Clusterのホストに対する自動検出を提供します。検出により、ホストリソースが追加され、その検出されたネットワーク、データストア、およびリソースプール用のリソースが追加されます。

主な機能

PlateSpin Migrate Connectorは、次の変換タイプのWindowsワークロードとLinuxワークロードの自動マイグレーションをサポートしています。

- ◆ 物理から仮想(VMware)へ
- ◆ 仮想(VMware)から仮想(VMware)へ

PlateSpin Migrate Connectorは、プロジェクト内のTransformation ManagerとPlateSpin Migrateサーバの統合による自動検出およびマイグレーションをサポートしています。PlateSpin Migrate Connectorは、ワークロード変換プロジェクトを計画、管理、および実行する上で以下の利点を提供します。

- ◆ **PlateSpin Transformation ManagerとPlateSpin Migrateサーバを統合する。** Migrate Connectorは、イベントメッセージングとセキュアREST API通信を使用して、Transformation Managerとご使用のPlateSpin Migrateサーバを統合します。
- ◆ **複数のConnectorインスタンスを許可する。** 各インスタンスが個別のプロジェクトに関連付けられている、単一のTransformation Managerサーバの複数のConnectorインスタンスを持つことができます。
- ◆ **Migrate Connectorのグローバル設定を行う。** PlateSpin Transformation Managerの [Migrate Connector] ページのグローバル設定は、すべてのプロジェクト間のすべてのConnectorインスタンスに適用されます。
- ◆ **ソースワークロードとターゲットホストの自動検出を提供する。** Migrate Connectorは、Transformation Managerのインポートオプションと連携して、プロジェクトのソースWindowsおよびLinuxワークロードとターゲットVMware Clusterホストの検出を自動化します。
- ◆ **使用可能なMigrateサーバ間でマイグレーションジョブの負荷を分散する。** Migrate Connectorは、ラウンドロビン負荷分散を使用して、プロジェクト内のPlateSpin Migrateサーバの大規模なサーバファーム間で均等にワークロードマイグレーションをジョブを分散します。
- ◆ **Migrateサーバ上で自動マイグレーションを行う。** 自動化モードでは、Migrate Connectorは、各ワークロードの変換計画に基づいてPlateSpinマイグレーション環境におけるVMwareマイグレーションプロジェクトのワークロードマイグレーションを自動的に実行します。グローバル設定により、実行されるマイグレーションジョブがマイグレーション前に設定され、ジョブがカットオーバー後に削除されるタイミングが制御されます。

- ◆ **PlateSpinマイグレーション環境における通信を調整する。** Migrate Connectorは、PlateSpinマイグレーション環境における通信のポーリングタイプとイベントタイプをサポートします。
 - ◆ Migrate Connectorは、Transformation Managerからマイグレーションイベントをリスンし、適切なMigrateサーバにコマンドを配布します。
 - ◆ Migrate ConnectorはPlateSpin Migrateサーバからマイグレーションステータスイベントをリスンし、適切なプロジェクトとワークロードにのみそれらのイベントを配布します。
- ◆ **ユーザが提供するコールアウトをサポートする。** Migrate Connectorは、Transformation Managerとご使用の内部システムを統合する、変換ワークフロー中のユーザが提供するコールアウトをサポートします。

2 Connectorのインストール

このセクションの情報に従って、マイグレートするソースワークロードと同じネットワーク内にPlateSpin Migrate Connectorのインスタンスを展開してください。

- [13 ページの「インストール要件」](#)
- [13 ページの「PlateSpin Migrate Connectorのダウンロード」](#)
- [13 ページの「PlateSpin Migrate Connectorのインストール」](#)

インストール要件

PlateSpin Transformation Managerアプライアンスには、Transformation Managerサーバと連携するように事前設定されているPlateSpin Migrate Connectorのインスタンスが含まれています。このConnectorを使用して、アプライアンスの展開先と同じネットワークにソースワークロードをマイグレートできます。

SUSE Linux Enterprise Server (SLES) Service Pack 4 (SP4)を実行しているユーザ独自のサーバにMigrate Connectorを別個に展開することもできます。各プロジェクトのネットワークに1つのConnectorインスタンスを展開できます。

PlateSpin Migrate Connectorのダウンロード

PlateSpin Migrate Connector 1.1のインスタンスがPlateSpin Transformation Manager 1.1アプライアンスにプリインストールされています。ConnectorはTransformation Managerサーバと連携するように設定されています。このインスタンスを使用して、アプライアンスのインストール先と同じネットワーク内にあるPlateSpin Migrate 12.2サーバを使用してワークロードマイグレーションを自動化できます。

PlateSpin Migrate Connector 1.1は、[NetIQ Downloads \(https://dl.netiq.com/\)](https://dl.netiq.com/) WebサイトのPlateSpin Transformation Manager 1.1 Downloadページからダウンロードできます。platespin-migrate-connector-1.1.0-xxx.noarch.rpmファイルをダウンロードしてください(xxxはビルド番号)。

警告なしにRPMをインストールするには、RPMをインストールする前にptm_public-key.keyファイルをダウンロードして、キーリングにインポートする必要があります。

PlateSpin Migrate Connectorのインストール

次の手順を実行して、PlateSpin Migrate Connectorをインストールします。

- 1 SLES 11 SP4サーバにrootユーザとしてログインします。
- 2 ダウンロードするRPMおよびKEYファイルをサーバ上の特定の場所にコピーします。
- 3 キーリングに公開鍵をインポートします。
- 4 端末コンソールを開いて、このRPMをインストールします。

```
rpm -ih platespin-migrate-connector-1.0.0-xxx.noarch.rpm
```

- 5 PlateSpin Transformation Managerサーバのインスタンスを設定します。[19 ページの「Transformation ManagerのConnectorインスタンスの設定」](#)に進みます。

3 PlateSpin Migrate Connectorの設定

PlateSpin Transformation Managerサーバは、ソースワークロードがあるネットワークに導入された1つ以上のPlateSpin Migrate Connectorインスタンスと連携動作します。ConnectorをPTMサーバに関連付けた場合は、そのネットワーク内にソースワークロードを有しているすべてのプロジェクトで、そのConnectorを使用できます。プロジェクトごとに別々のConnectorインスタンスを設定することもできます。

注: Transformation Managerシステム管理者役割に割り当てられたユーザのみが、PlateSpin Migrate Connectorのグローバル設定を変更できます。デフォルトのワークフロー設定を変更する必要がある場合、システム管理者に連絡してください。

- ◆ [15 ページの「展開要件」](#)
- ◆ [19 ページの「Transformation ManagerのConnectorインスタンスの設定」](#)
- ◆ [21 ページの「Connectorのグローバル設定」](#)
- ◆ [24 ページの「PlateSpin Migrateサーバの接続情報の設定」](#)
- ◆ [25 ページの「PlateSpin Migrate Connectorサービスの開始、再起動、または停止」](#)
- ◆ [25 ページの「Connectorの起動の「自動」または「手動」の設定」](#)
- ◆ [26 ページの「変換ワークフローエラーのトラブルシューティング」](#)
- ◆ [26 ページの「Connectorログの表示」](#)
- ◆ [26 ページの「アプライアンス上のConnectorログファイルのダウンロード」](#)

展開要件

PlateSpin Migrate Connectorを使用するには、マイグレーション環境内で次のハードウェア、ソフトウェア、およびネットワークの設定が必要になります。

- ◆ [15 ページの「PlateSpin製品」](#)
- ◆ [16 ページの「ネットワーク接続とアクセス要件」](#)

PlateSpin製品

PlateSpin Migrate Connectorは、ユーザの環境に展開された以下のPlateSpin製品の間でマイグレーション活動を統合および統制します。

- ◆ **PlateSpin Transformation Manager 1.1**

PlateSpin Transformation Managerを設定し、変換プロジェクトを設定します。Migrate ConnectorをPlateSpin Transformation Serverまたはサーバ上の固有のプロジェクトに割り当てることができます。Transformation Managerは、自動検出と自動マイグレーションの実行に必要です。詳細については、[19 ページの「Transformation ManagerのConnectorインスタンスの設定」](#)を参照してください。

- ◆ **PlateSpin Migrate 12.2**

PlateSpinマイグレーション環境内で、PlateSpin Migrate Connectorはプロジェクト用に1つ以上のPlateSpin Migrate 12.2サーバに接続できます。詳細については、[24 ページの「PlateSpin Migrateサーバの接続情報の設定」](#)を参照してください。

重要: RoleサービスWebDAV PublishingがPlateSpin Migrateサーバにインストールされている場合は、[Server Manager (サーバマネージャ)] > [Roles (役割)] > [Web Server (IIS) (Webサーバ(IIS))] > [Role Service (役割サービス)] > [Common HTTP features (一般的なHTTP機能)] > [WebDAVPublishing(WebDAVPublishing)] の順に選択して、WebDAVPublishingをアンインストールしてください。

この製品の購入方法については、「[PlateSpin Migrate \(https://www.netiq.com/products/migrate/\)](https://www.netiq.com/products/migrate/)」を参照してください。

この製品のインストールと使用については、[PlateSpin Migrate Documentation Webサイト \(https://www.netiq.com/documentation/platespin-migrate-12-2/\)](https://www.netiq.com/documentation/platespin-migrate-12-2/)を参照してください。

ネットワーク接続とアクセス要件

PlateSpin Migrate Connectorでは、PlateSpin Transformation Managerサーバまたは固有のプロジェクトへの割り当てに基づいて、以下のリソースへのネットワーク接続が必要です。

- ◆ Transformation Managerに割り当てられたPlateSpin Transformation Managerサーバ
- ◆ ソースワークロード
- ◆ ターゲットVMware Clusterホスト
- ◆ PlateSpin Migrateサーバ

ご利用の環境がネットワーク接続とアクセスに対する以下の要件を満たしている必要があります。

- ◆ [17 ページの「イベントメッセージング」](#)
- ◆ [17 ページの「PlateSpin検出環境」](#)
- ◆ [18 ページの「PlateSpinマイグレーション環境」](#)
- ◆ [18 ページの「PlateSpin Transformation Manager用のセキュアHTTP設定」](#)

イベントメッセージング

PlateSpin Transformation Managerでは、登録済みリスナーに対してワークロードワークフロー状態変更メッセージを発行します。各Migrate Connectorインスタンスは割り当てられたTransformation Managerサーバまたはプロジェクトで登録され、イベントをリスンし、プロジェクト内のMigrateサーバ上でこれらのイベントに対する適切なアクションを実行します。

PlateSpinマイグレーション環境内で、各PlateSpin Migrateサーバは登録済みリスナーに対してワークロードマイグレーション状態変更メッセージを発行します。Migrate Connectorインスタンスはプロジェクト内のMigrateサーバで登録され、メッセージをリスンして、Transformation Managerの適切なプロジェクトとワークロードにこれらのメッセージを配布します。

表 3-1では、検出および自動マイグレーションのメッセージングに必要なプロトコルとポートを示しています。これらのメッセージには、イベントと状態変更が反映されていますが、機密情報は含まれていません。

表 3-1 ネットワークプロトコルおよびポートのイベントメッセージング要件

トラフィック	ネットワークプロトコルおよびポート	その他の要件
イベントメッセージング	61613 TCP、着信 (セキュアではない)	このポートは、Transformation Managerアプライアンス上で、デフォルトで開いています。 自動マイグレーションの場合、プロジェクトに割り当てられたPlateSpin Migrateサーバ上でこのポートを開きます。

PlateSpin検出環境

ワークロード検出では、ソースワークロードおよびファイアウォールに対して着信ping (ICMPエコー応答およびICMPv4-Inエコー要求)を有効にする必要があります。PlateSpinはIPv4のみをサポートします。ワークロード検出に必要なソフトウェア、ネットワーク、およびポート設定については、表 3-2を参照してください。

表 3-2 ネットワークアクセスおよび通信のワークロード検出要件

検出ターゲット	ネットワークプロトコルおよびポート	その他の要件
Windowsワークロード	◆ ICMP、着信 ◆ SMB (TCP 445または139)	◆ Microsoft .NET Framework 2.0 SP2、3.5 SP1、または4.0 ◆ ドメイン管理者の資格情報またはビルトイン管理者特権
Linuxワークロード	◆ ICMP、着信 ◆ SSH (TCP 22、着信)	ルートレベルのアクセス。ルート以外のアカウントの使用については、 ナレッジベースの記事 7920711 (https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7920711) を参照してください。

ホスト検出では、ターゲットVMwareホストおよびファイアウォールに対して着信ping (ICMPエコー応答およびICMPv4-Inエコー要求)を有効にする必要があります。PlateSpinはIPv4のみをサポートします。ホスト検出に必要なソフトウェア、ネットワーク、およびポート設定については、[表 3-3](#)を参照してください。

表 3-3 ネットワークアクセスおよび通信のホスト検出要件

検出ターゲット	ネットワークプロトコルおよびポート	その他の要件
VMware Clusterホスト	- ICMP、着信 - SMB (TCP 445または139、着信)	管理者の役割を持つVMwareアカウント

PlateSpin Transformation Managerサーバ上および各PlateSpin Migrate Connector上でイベントメッセージングに必要なポートを開いていることを確認します。詳細については、[17 ページの「イベントメッセージング」](#)を参照してください。

PlateSpinマイグレーション環境

[表 3-4](#)では、PlateSpin Transformation Managerで自動マイグレーションにMigrate REST APIを使用できるように、各Migrateサーバ上に、ファイアウォールで開くポートを提供しています。また、Migrateサーバのマイグレーションサーバリソースは、Migrate管理者ユーザ向けの有効な資格情報リソースを提供する必要があります。

表 3-4 ネットワークアクセスおよび通信のREST API 要件

REST APIトラフィック	ネットワークプロトコルおよびポート	アクセス
HTTPS (セキュア)	ポート443、TCP、着信および発信	Migrateサーバ用の管理者ログイン資格情報
HTTP (非セキュア)	ポート80、TCP、着信および発信	Migrateサーバ用の管理者ログイン資格情報

PlateSpin Transformation Managerサーバおよび各PlateSpin Migrateサーバ上でイベントメッセージングに必要なポートを開いていることを確認します。詳細については、[17 ページの「イベントメッセージング」](#)を参照してください。

PlateSpin Transformation Managerでは、ご利用のマイグレーション環境が、ネットワーク通信に対するPlateSpin Migrate要件を満たしている必要があります。『[PlateSpin Migrate 12.2 ユーザガイド](#)』の「[Requirements for Migration](#)」を参照してください。

PlateSpin Transformation Manager用のセキュアHTTP設定

PlateSpin Migrate ConnectorとPlateSpin Transformation Managerの間のセキュアHTTPS接続のために、PlateSpin Transformation ManagerアプライアンスVM上のJetty SSL設定は最新の推奨セキュリティ設定に基づいて設定されています。

Transformation ManagerのConnectorインスタンスの設定

PlateSpin Transformation Managerアプライアンスには、アプライアンス上でTransformation Managerサーバと連携するように自動的にインストールおよび設定されているPlateSpin Migrate Connectorのインスタンスが含まれています。デフォルトではすべてのプロジェクトと連携します。Transformation Managerでプロジェクトを設定した後で、ptm_project_idをアプライアンス上の/opt/microfocus/migrate_connector/config/settings.cfgファイルに追加し、Connectorインスタンスを固有のプロジェクトに割り当てることができます。

ユーザ独自のSUSE Linux Enterprise Server 11 SP4サーバに展開する各PlateSpin Migrate Connectorインスタンスを手動で設定する必要があります。SP4サーバ。

PTMサーバまたは固有のプロジェクトのConnectorインスタンスを設定するには:

- 1 rootユーザアカウントを使用してSLES 11 SP4サーバにログインします。
- 2 テキストエディタで、/opt/microfocus/migrate_connector/config/settings.cfg ファイルを開きます。
- 3 [PlateSpin Transformation Manager Server]という名前の先頭セクションで値を設定します。

オプション	説明
ptm_host	Transformation Managerサーバのホスト名またはIPアドレスを指定します。たとえば、アプライアンス上のMigrate Connectorインスタンスはlocalhostです。 ptm_host=localhost
ptm_port	Transformation Managerサーバ用に使用されるポートを指定します。HTTPSの既定のポートは8183です。HTTPの既定のポートは8182です。 ptm_port=8183
ptm_ssl	SSLを使用してTransformation Managerサーバに接続するには、trueという値を指定します。有効な値はtrueとfalseです。 ptm_ssl=true
verify_ptm_ssl_cert	PlateSpin Transformation Managerサーバに接続する際に、証明書の検証を強制するかどうかを指定します。有効な値はfalseとtrueです。デフォルトでは検証は行われません(false)。 verify_ptm_ssl_cert=false

オプション	説明
ptm_username	システム管理者の役割が割り当てられたPlateSpin Transformation Managerサーバ上の有効なユーザアカウントの電子メールアドレスを指定します。 ptm_username=john.doe@example.com 注: コネクタで使用するための専用ユーザアカウントをPlateSpin Transformation Managerで作成することをお勧めします。Migrate Connectorを任意のプロジェクトで実行できるようにするために、そのアカウントにシステム管理者の特権を割り当てることをお勧めします。このユーザアカウントには、Connectorを実行する必要があるプロジェクトに対するプロジェクト設計者レベル以上の特権が割り当てられている必要があります。 『PlateSpin Transformation Managerユーザガイド』で「Roles」および「Creating a User」を参照してください。
ptm_password	ユーザアカウントのパスワードを指定します。 ptm_password=yourpassword
ptm_project_id	(オプション)すべてのプロジェクトでConnectorを使用可能にする代わりに、単一のプロジェクトのみでConnectorを使用できるように制限するために、Transformation Manager内のプロジェクトのプロジェクトID番号を指定します。Connectorは、この割り当てられたプロジェクト内のイベントとアクションのみを処理します。 ptm_project_id=1234 PlateSpin Transformation Manager内のプロジェクトに関連付けられたID番号を確認するには、次の手順を実行します。 1. Webインタフェースで、[プランニング] > [プロジェクト] の順に選択します。 2. 目的のプロジェクトを選択してから、[編集] をクリックします。 3. [Edit Project (プロジェクトの編集)] ダイアログで、ダイアログのタイトル領域に表示されているプロジェクト名をマウスオーバーします。ツールチップに、そのプロジェクトのID番号が表示されます。

- 4 ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。
- 5 PlateSpin Migrate Connectorを開始または再起動します。端末コンソールで、次のコマンドを入力します。

```
rcps_migrate_connector restart
```

アプライアンス管理UIからConnectorを再始動することもできます。

Connectorのグローバル設定

マイグレーション環境に異なるネットワークが含まれている場合は、各ネットワークに1つのPlateSpin Migrate Connectorサーバを展開します。各コネクタをPlateSpin Transformation Managerサーバに割り当てます(19 ページの「Transformation ManagerのConnectorインスタンスの設定」の説明を参照)。

コネクタのデフォルト動作は、Transformation Manager Webインタフェースの [System Configuration (システム設定)] > [Migrate Connector (Migrate Connector)] で指定された設定から継承されます。

- 21 ページの「Connectorのグローバルオプションについて」
- 23 ページの「グローバルMigrate Connector設定の表示」
- 24 ページの「グローバルMigrate Connector設定の編集」

Connectorのグローバルオプションについて

PlateSpin Transformation Managerの [System Configuration (システム設定)] > [Migrate Connector (Connectorの移行)] ページで、システム管理者は、マイグレーションプロジェクトのデフォルトのワークフローをカスタマイズできます。このワークフローは、1つまたは複数のPlateSpin Migrateサーバを利用してワークロードのマイグレーションを実行します。

注: 変更を適用するためには、設定を変更した後に、PlateSpin Migrate Connectorを再起動する必要があります。

- 21 ページの「一般設定」
- 22 ページの「Migrateサーバの設定」
- 23 ページの「お客様が指定するスクリプト」

一般設定

未実行イベントのポーリング間隔

ワークロードのマイグレーションイベントのポーリング間の秒数を指定します。

デフォルト値は300秒です(5分)。値が小さいほどPTMサーバおよびマイグレートサーバへの負荷が増します。

再接続再試行間隔

接続に失敗した後にPTMがPlateSpin Migrateサーバへの再接続を試行するまでに待機する秒数を指定します。

デフォルト値は1500秒です(25分)。

Migrate設定の一時停止

MigrateユーザがMigrateサーバでワークロードのマイグレーションを手動で設定するまで変換ワークフローを一時停止するかどうかを指定します。

手動マイグレート設定はデフォルトでは無効になっています。

手動の事前カットオーバーテストの一時停止

Migrateユーザが事前カットオーバーテストを手動でトリガするまで変換中/インクリメンタルレプリケーション状態の変換ワークフローを一時停止するかどうかを指定します。

手動事前カットオーバーテストはデフォルトでは無効になっています。

Migrateサーバの設定

Add Workload to Migrate (マイグレーションするワークロードの追加)

自動的に割り当てられたPlateSpin Migrateサーバにワークロードマイグレーションジョブを追加する開始日までの日数を指定します。

このオプションは、デフォルトでは0 (ゼロ)という値が指定されて無効になっています。ユーザが変換計画を送信すると、Migrate ConnectorはMigrateサーバを直ちに自動割り当てして、ワークロードマイグレーションジョブを追加してから、マイグレーションを実行する開始日まで待機します。このジョブは、開始日までの待機期間中に容量とMigrateライセンスを消費します。容量がまだ必要でない期間に消費されることによって、開始日が早めのワークロードのマイグレーションがブロックされる可能性があります。

1以上の値を設定して自動制御を有効にすることで、指定された開始日前インターバルまで待ってからマイグレーションの準備を開始するようにします。Migrateサーバ上の容量やライセンスを直ちに消費することなく、ワークロード変換計画が準備状態になったときにそれらのワークロード変換計画を送信できます。

最大ワークロード

PlateSpin Migrateサーバで一度に処理できる最大ワークロード数を指定します。

デフォルト値は「100」です。ユーザのPlateSpinマイグレーション環境に適した値を特定するには、『[PlateSpin Migrate 12.2ユーザガイド](#)』の「[Performance](#)」を参照してください。

注: 次の方法によって、さらなるワークロードを追加するための容量を回復できます。

- ◆ Migrateサーバにワークロードを追加する開始日の前に、開始日前のインターバルまで待ちます。詳細については、「[Add Workload to Migrate \(マイグレーションするワークロードの追加\)](#)」を参照してください。
 - ◆ カットオーバーが正常に実行された後に、ワークロード情報を削除します。詳細については、「[Remove Workload After Cutover \(カットオーバー後のワークロードの削除\)](#)」を参照してください。
-

最大ターゲット

PlateSpin Migrateサーバで処理できる最大検出ターゲット数を指定します。

デフォルトは27です。

SSL証明書の確認

PlateSpin Migrateサーバへの接続のSSL証明書検証を有効にするかどうかを指定します。

証明書検証はデフォルトでは無効になっています。このチェックボックスをオンにすると、この機能が有効になります。

Remove Workload After Cutover (カットオーバー後のワークロードの削除)

カットオーバー完了後にPlateSpin Migrateサーバからワークロード情報をクリーンアップするかどうかを指定します。

デフォルトでは有効になっています。属性を無効にするには、そのチェックボックスをオフにします。

この日数経過後に削除

ワークロードがカットオーバーされてからPlateSpin Migrateサーバからワークロード情報をクリーンアップするまでの日数を指定します。

デフォルトは3日です。

お客様が指定するスクリプト

カスタムインポートスクリプトの実行

最初のワークロード検出後にカスタムインポートコールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

送信検証スクリプトの実行

ワークロードをMigrateに追加する前に送信検証コールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

事前カットオーバーテストスクリプトの実行

ワークロードのレプリケーション後に事前カットオーバーテストコールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

カットオーバー後テストスクリプトの実行

ワークロードのカットオーバー後にカットオーバー後テストコールアウトスクリプトを自動的に実行するかどうかを指定します。

デフォルトは無効です。

グローバルMigrate Connector設定の表示

システム管理者、プロジェクトマネージャ、およびプロジェクト設計者は、PTMサーバに関連付けられているPlateSpin Migrate Connectorインスタンスのグローバル設定を表示できます。

コネクタ設定を表示するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**〔設定〕** を選択します。
- 2 **〔System Configuration (システム設定)〕** ダイアログで、**〔Migrate Connector (Connectorの移行)〕** を選択します。
- 3 スクロールして設定を表示します。
 - ◆ [一般設定](#)

- ◆ [Migrateサーバの設定](#)
 - ◆ [お客様が指定するスクリプト](#)
- 4 操作を完了したら、**【閉じる】** をクリックして **【System Configuration (システム設定)】** ダイアログを終了します。

グローバルMigrate Connector設定の編集

システム管理者は、PTMサーバに割り当てられているPlateSpin Migrate Connectorインスタンスのあらゆるグローバル設定を変更できます。変更は、すべての変換プロジェクトの製品に適用されます。

コネクタ設定を編集するには:

- 1 Webインタフェースツールバーで、**【設定】** を選択します。
- 2 **【System Configuration (システム設定)】** ダイアログで、**【Migrate Connector (Connectorの移行)】** を選択します。
- 3 **【編集】** をクリックします。
- 4 **【Edit Connector Settings (コネクタ設定の編集)】** ダイアログで、次の該当のオプション設定を指定します。
 - ◆ [一般設定](#)
 - ◆ [Migrateサーバの設定](#)
 - ◆ [お客様が指定するスクリプト](#)
- 5 **【保存】** をクリックします。
- 6 **【閉じる】** をクリックして **【System Configuration (システム設定)】** ダイアログを終了します。
- 7 PTMサーバに接続されているそれぞれのPlateSpin Migrate Connectorサーバについて、Connectorサーバにルートユーザとしてログインし、Connectorサービスを再起動します。

PlateSpin Migrateサーバの接続情報の設定

PlateSpin Migrate Connectorは、PlateSpin MigrateタイプのTransformation Managerプロジェクトのマイグレーションサーバリソースのみを認識します。プロジェクトのマイグレーションサーバリソースを作成するため、PlateSpin Migrateサーバに関する接続情報を提供します。マイグレーションサーバリソースを作成するには、PlateSpin Transformation Manager Webインタフェースで、**【リソース】 > 【マイグレーションサーバ】** タブに移動し、**【作成】** をクリックします。『[PlateSpin Transformation Manager User Guide](#)』の「[Managing Migration Server Resources](#)」を参照してください。

ネットワークとアクセス要件については、『[PlateSpin Transformation Manager ユーザガイド](#)』の「[PlateSpin マイグレーション環境](#)」を参照してください。

PlateSpin Migrate Connectorサービスの開始、再起動、または停止

PlateSpin Migrate Connectorサービスは、Transformation Managerアプライアンスの電源をオンにすると自動的に開始されます。Connectorホストサーバ上でrcps_migrate_connectorコマンドを使用してPlateSpin Migrate Connectorサービスを開始、再起動、または停止できます。

アプライアンスまたはConnectorホストサーバ上で:

- 1 ローカルのrootユーザアカウントを使用してConnectorホストサーバにログインします。
アプライアンス上で、SSHが有効であることを確認します。『[PlateSpin Transformation Manager Appliance ガイド](#)』の「[SSHサービスの有効化または無効化](#)」を参照してください。
- 2 端末コンソールを起動します。
- 3 プロセスを始動、停止、または再起動するための適切なコマンドを入力します。
`rcps_migrate_connector [start | stop | restart]`
- 4 (オプション) /var/opt/microfocus/migrate_connector/logs/migrate-connector.logというログファイルを表示します。

アプライアンス管理コンソールは、PlateSpin Transformation Managerアプライアンス上のConnectorサービスインスタンスのこれらの機能をサポートしています。

PlateSpin Transformation Managerアプライアンス上で、次の手順を実行します。

- 1 vaadminユーザとしてPlateSpin Transformation Managerアプライアンス管理コンソールにログインします。
- 2 [システムサービス] をクリックします。
- 3 [Available System Services (使用可能なシステムサービス)] のリストで、[PTM用のPlateSpin Migrate Connector] を選択します。
- 4 [Action (アクション)] をクリックしてから、[Stop (停止)]、[Start (始動)]、または[Restart (再起動)] を適宜選択します。
- 5 (オプション)Connectorサービスの始動を「自動」または「手動」に設定するには、[オプション] をクリックし、[自動として設定] または [手動として設定] を選択します。
- 6 (オプション) [Log Files (ログファイル)] 列で、Connectorサービスの [download (ダウンロード)] リンクをクリックして、ファイルを自身の管理マシンにダウンロードします。
- 7 [閉じる] をクリックして、システムサービスを終了します。
- 8 アプライアンス管理コンソールを終了します。

Connectorの起動の「自動」または「手動」の設定

PlateSpin Transformation Managerアプライアンス上で、PlateSpin Migrate Connectorサービスはシステムの再起動時に自動的に起動するように設定されています。サービスの起動を「自動」または「手動」として設定できます。

- 1 Webブラウザで、ポート番号9443のアプライアンスに対してDNS名またはIPアドレスを指定します。次に例を示します。

https://10.10.10.1:9443

または

https://ptm.example.com:9443

- 2 アプライアンスの管理ユーザ名とパスワードを指定し、**【Sign in (サインイン)】** をクリックします。デフォルトのユーザは、vaadminまたはrootです。
- 3 **【システムサービス 】** をクリックします。
- 4 Migrate Connectorサービスを選択します。
- 5 **【オプション】** をクリックし、**【自動として設定】** (デフォルト)または**【手動として設定】** を選択します。
- 6 **【閉じる】** をクリックして、システムサービスを終了します。

変換ワークフローエラーのトラブルシューティング

ワークロードの検出ワークフローまたはマイグレーションワークフローの最中にいずれかのステップでエラーが発生した場合は、PlateSpin Transformation Managerでそのワークロードの**【変換計画】** ダイアログの上部にエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージをマウスオーバーすると、追加のトラブルシューティング情報がツールチップに表示されます。

詳細については、『[PlateSpin Transformation Manager ユーザガイド](#)』のトラブルシューティングのヒントを参照してください。

- [「検出失敗のトラブルシューティング」](#)
- [「自動マイグレーション失敗のトラブルシューティング」](#)

Connectorログの表示

アプライアンス上またはConnectorホスト上のPlateSpin Migrate Connectorサービスのログにアクセスできます。rootとしてログインし、次の場所に移動します。

Migrate Connectorのログファイル

/var/opt/microfocus/migrate_connector/logs/migrate_connector.log

PlateSpin Migrate Connector Out File

/var/opt/microfocus/migrate_connector/logs/migrate_connector.log

アプライアンス上のConnectorログファイルのダウンロード

PlateSpin Transformation Managerアプライアンス上のPlateSpin Migrate Connectorインスタンスで問題が発生した場合は、ログファイルをダウンロードして、テクニカルサポートに送信することが必要になる場合があります。

- 1 Webブラウザで、ポート番号9443のアプライアンスに対してDNS名またはIPアドレスを指定します。次に例を示します。

https://10.10.10.1:9443

または

https://ptm.example.com:9443

- 2 アプライアンスの管理ユーザ名とパスワードを指定し、**[Sign in (サインイン)]** をクリックします。デフォルトのユーザは、vaadminまたはrootです。

- 3 **[システムサービス ** をクリックします。

- 4 **[Log Files (ログファイル)]** 列で、該当するサービスの **[download (ダウンロード)]** リンクをクリックし、ログファイルを管理ワークステーションにダウンロードします。

PlateSpin Transformation Manager: 次のログファイルを収集、zip圧縮、およびダウンロードします。

- ◆ tm_server.log
- ◆ platespin-transformmgr.out
- ◆ platespin_transformmgr_config.log

PTM用のPlateSpin Migrate Connector: 次のログファイルを収集、zip圧縮、およびダウンロードします。

- ◆ migrate_connector.log
- ◆ platespin-migrate-connector.out

- 5 **閉じる** をクリックして、システムサービスを終了します。

